



James R. Holton 著  
**An Introduction to  
 Dynamic Meteorology**  
 (3rd Edition)

Academic Press, 1992,  
 511 pp, \$ 45

気象力学の本格的入門教科書として名声の高いホルトン教授(ワシントン大学)の上記テキストが、この度装いも新たに改訂第3版として出版された。初版(1972)以来20年にわたり、この本は世界中の気象学教科書の中でベストセラートップの座を保ち続けている名著である。二年半前、ホルトン氏がサバティカルで京都に滞在中に想を練って改訂に着手し、その後折りにふれ進捗状況話を話してくれていたのが、完成を楽しみにしていたところである。早速手もとに一冊送られてきたので、旧版をお読みの方、初めての若い方々の両方に対し、新版のご紹介をしよう。

このテキストは、気象学を専攻する学部上級生あるいは他のコースから入ってきた大学院学生を対象としたホルトン教授の講義をベースに書かれたものであり、日本の場合、学部卒、修士課程のレベルに最適である。のみならず、気象学を教える立場からは自分の講義ノートを整理する上でまたとない参考書でもある。

前半の第7章までは、旧版とほぼ同じく、気象力学に必要な基礎方程式の導出から始まり、境界層、総観規模運動、線形理論等がオーソドックスにかつ極めて親切に記述されている。言ってみれば、この部分は気象力学の古典であり、特に改訂を要する内容ではないが、そこは誠実無比のホルトン氏のこと、より分かり易くすべく細かい所にまで推敲の筆が行き届いている。

第2版(1979; 391頁)にくらべ、新版で100頁余りの

増補は、主として後半部に当てられている。即ち、旧版にはなかったメソスケール循環、中層大気力学などの章があらたに書き下ろされ、1980年代におけるこれらの分野の発展の跡が生き生きと伝えられている。勿論、大循環、熱帯気象、数値モデリングの各章もそれぞれに改訂が加えられている。このことは、巻末の索引にいくつかの新しいキーワードが含まれていることからもうなずけよう。入門教科書のため、原論文(原図)の直接の引用は必ずしも多くはないが、たとえば中層大気の大気のような最新の図は当然とり入れられている。

このテキストの特徴は「正統的」の一語に尽きる。たとえば先年出版された Lindzen の“Dynamics in Atmospheric Physics”に見られるような強烈な個性・独自性は全くないが、かと言ってこれだけ本格的なテキストを完璧に近い形で書ける著者をほかに探すことは至難であるろう。ついでに言えば、曾てこの全く異質の才をもった二人が組んで QBO 理論を作り上げたことは、研究と教育の関係を考える上で極めて示唆的であると思われる。

ホルトン教授の著作のもうひとつの特徴は、その明晰な文体にある。私の研究室では今年度のセミナーにこの本を使っている。初めて英語のテキストを読む学生達の中には内容は二の次で専ら英文和訳に終始する者もなくはないが、この教科書に関するかぎり、日本語への翻訳などむしろしないほうが良い。それだけ読みやすく分かり易い文章である。修士論文など、近々英語で論文を書くとする学生諸君には、このテキストの音読を勧める。「英作文は英借文」の言葉どおり、伝えるべき内容を平明かつ簡潔な英文で書く良いお手本となろう。

いずれにせよ、本棚にまた優れた一冊の加わったことは嬉しいかぎりである。

(京大大学院理学部 廣田 勇)

## 講演企画委員会からのお知らせ——「スペシャル・セッション」のテーマ募集

1993年度春季大会のスペシャル・セッションを下記の要領で募集します。なお、テーマや申込総数によっては講演企画委員会で調整をする場合もあり得ますので、ご了承下さい。

### 記入事項:

1. セッションのテーマ
2. 趣旨説明(400字程度)
3. 呼びかけ人およびその連絡先

以上は「天気」12月号に掲載されます。

申込先: 〒305 茨城県つくば市長峰 1-1

気象研究所 予報研究部内

講演企画委員会(藤部文昭)

申込期限: 1992年11月19日(木) 必着

なお、スペシャル・セッション、キーワード等に対するご意見・ご要望がありましたら、随時講演企画委員会(上記宛て先)へお寄せ下さい。